



厳しい暑さが続いております。今月号も最新トピックスをお届けします。

国内動向

① ナノマテリアル情報提供シートの公開(経済産業省)

経済産業省は7月、平成26年度ナノマテリアル情報提供シートを公開した。カーボンナノチューブ、カーボンブラック、二酸化チタン、フラーレン、酸化亜鉛、シリカの情報が提供されている。

http://www.meti.go.jp/policy/chemical_management/other/nano_program.html

② 「フロン類の製造業者等向けガイドライン」の公表(経済産業省)

経済産業省は、7月8日、「フロン類の製造業者等向けガイドライン」を公表した。本ガイドラインは、フロン類の製造業者等(フロン類を①自ら製造、②自ら輸入、③製造・輸入を他者に委託する行為を業として行う事業者)を対象として、フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律(平成13年法律第64号)、省令等の考え方、フロン類の製造業者等向けの対応を中心に解説したものである。

http://www.meti.go.jp/policy/chemical_management/ozone/furon-gas-guideline.pdf

③ 平成27年度厚生労働省委託事業「ラベル・SDS活用促進事業」化学物質リスクアセスメントセミナーの開催(厚生労働省)

厚生労働省は、8月4日より、東京、大阪をはじめとする全国7か所で厚生労働省委託事業「ラベル・SDS活用促進事業」化学物質リスクアセスメントセミナーを開催する。職場において化学物質による健康障害等を防止するためには、事業場において取り扱う化学物質の危険有害性情報の的確な把握と、適切な防止措置が必要となる。本セミナーは、ラベル・SDSの理解を深め、中小規模事業場等における適正な化学物質管理対策が広く実施されることを目的として開催される。

<http://www.technohill.co.jp/chemic/h27sds/>

④ 平成27年度化学物質の内分泌かく乱作用に関する公開セミナーの開催(環境省)

環境省は、8月20日、「平成27年度化学物質の内分泌かく乱作用に関する公開セミナー」を開催する。米国環境健康科学研究所等による欧米の化学物質の内分泌かく乱作用に関する検討状況等の報告や国内で進められている取組について報告される。

<http://www.env.go.jp/press/101237.html>

海外動向

① 15物質の認可対象物質リストへの追加提案(欧州化学品庁(ECHA))

ECHAは、15物質を認可対象物質リストに追加提案した。これらの物質は使用量が多く、用途範囲が広いため人や環境に影響を与える可能性があり、認可対象物質の代替物質として潜在的に使用されている物質などである。

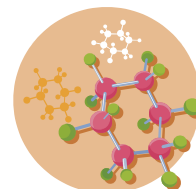
http://echa.europa.eu/view-article/-/journal_content/title/echa-proposes-15-substances-for-authorisation

http://echa.europa.eu/documents/10162/13640/annex_xiv_6th_rec_annex.pdf

② 優先既存化学物質(PEC)の評価文書を公表(オーストラリア(NICNAS))

NICNASは、7月7日、優先化学物質(Priority Existing Chemical; PEC)であるフタル酸ブチルベンジル(CAS No. 85-68-7)の評価文書を公開した。

<http://www.nicnas.gov.au/communications/publications/chemical-gazette/chemical-gazette-no.-c-07-tuesday,-07-july-2015/specia-1-notices/priority-existing-chemicals-release-of-final-report-on-butyl-benzyl-phthalate>



特集 ④⑧ : GHS/SDS 対応 CERi のサポートメニュー第 3 回(健康有害性試験②)

6月号より、GHS(化学品の分類及び表示に関する世界調和システム)による危険有害性の分類とラベル表示、安全データシート(SDS)の作成に係るCERiのサポートメニューを紹介しております。今月号では、人健康有害性評価に必要な試験のうち、皮膚感作性と変異原性に係る試験をご紹介します(下表参照)。表に記載していない各種試験もございますので、お気軽にお問い合わせください。

実施可能試験	OECD TG No. (試験法)	CERiでの 使用動物・細胞など	判別可能 GHS 区分	特徴
<i>in vivo</i> 皮膚感作性試験	429 (LLNA)	マウス	「1A」・「1B」 ・「区分外」	動物数・苦痛削減(動物愛護に適合) 放射性同位体(RI)使用、EC3により細区分可
	442B *1 (LLNA:BrdU-ELISA)	マウス	「1」・「区分外」	動物数・苦痛削減(動物愛護に適合) non-RI法、細区分不可
<i>in vitro</i> 皮膚感作性試験	Draft TG (h-CLAT)	THP-1細胞	IATA *2 利用した場合 「1」・「区分外」	動物不使用(動物愛護に適合) 単独試験での区分不可、公開されている Draft ガイドラインを参照するため、暫定的分類
<i>in chemico</i> 皮膚感作性試験	442C *1 (DPRA)	合成ペプチド	同上	動物不使用(動物愛護に適合) 単独試験での区分不可
<i>in silico</i> 皮膚感作性試験	- (Q)SAR)	Derek Nexus	同上	動物不使用(動物愛護に適合) (Q)SAR 予測、単独試験での区分不可
<i>in vitro</i> 変異原性試験	471 *1 (Ames 試験)	大腸菌及び ネズミチフス菌	<i>in vitro</i> 変異原性試験 のみでの区分不可	動物不使用(動物愛護に適合) 細菌使用、復帰突然変異試験
	473 *1 (染色体異常試験)	CHL/IU 細胞 又はヒトリンパ球		動物不使用(動物愛護に適合) 哺乳類培養細胞使用
	476 *1 (MLA)	L5178Y TK+/-細胞		動物不使用(動物愛護に適合) 哺乳類培養細胞使用、遺伝子突然変異試験
	476 *1 (HPRT)	V79 細胞		動物不使用(動物愛護に適合) 哺乳類培養細胞使用、遺伝子突然変異試験
	487 *1 (小核試験)	V79 細胞、TK6 細胞 又はヒトリンパ球		動物不使用(動物愛護に適合) 哺乳類培養細胞使用
<i>in vivo</i> 体細胞 変異原性試験	474 *1 (小核試験)	マウス又はラット	「2」	骨髄細胞使用

*1 GLP 対応可 *2 Integrated Approaches to Testing and Assessment、複数試験による組合せ評価



お知らせ

「GLP規則の徹底理解」セミナーの開催

平成27年8月25日(火)、東京(中小企業振興公社)において開催されるセミナー「CLP規則の徹底理解」で吉川職員が講師を務めます。割引制度がありますので参加ご希望の方はご連絡ください。

http://www.johokiko.co.jp/seminar_medical/AA150882.php

コントロール・バンディングに関するセミナーの開催

平成27年9月30日(水)、東京都品川区(きゅりあん)において開催されるセミナー「《改正 安衛法》2016年6月までにマスターしたい、健康リスクアセスメント手法とコントロール・バンディング」にて片桐職員及び北村職員が講師を務めます。 <http://www.science-t.com/st/cont/id/24320>

ご質問等ございましたら、以下の連絡先にお気軽にお問い合わせください。

CERi 一般財団法人 化学物質評価研究機構
Chemicals Evaluation and Research Institute, Japan

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-4-25 日教販ビル 7F
安全性評価技術研究所 研究第二部
Tel: 03-5804-6136 (担当者: 石井(聡)、菊野、林)
URL: <http://www.cerij.or.jp> E-mail: cac-reach@ceri.jp